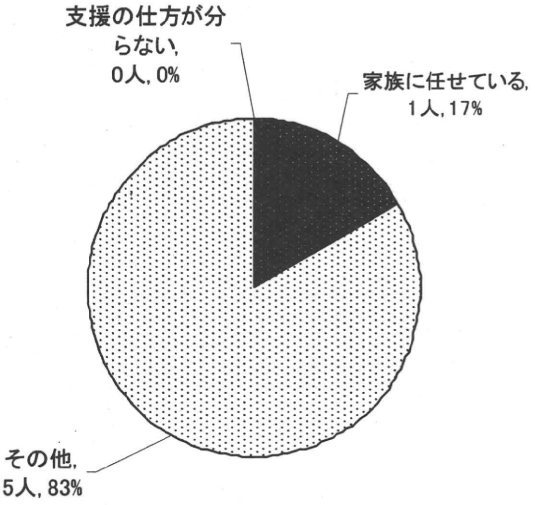
Q４．Q３で「ア．支援している」と答えた方にお尋ねします。支援している中で、どのようなことでお困りですか。あるいは、どのようなことが課題となっていますか。

発達障がい児へのアプローチとの差異
感情のコントロール、物忘れ
学習の積み重ねが難しい。難しい（次のステップの）課題へなかなかむかえない。感情のコントロールが難しい。
私自身が子どもの障がいの程度をしっかり把握できていないので、どのような支援が必要なのか悩む。クラスの集団の中で周りの子が、その子を理解しサポートできる環境作りは難しいです。
見た目は健常に見える（小１時の脳炎の後遺症、前頭葉の損傷で記憶障がいが主、IQ５３）ので、集団の中で理解されにくく「何回注意しても同じまちがいをする」「うん、わかったと言うのにわかってない」「見通しを立てて行動しない」「すぐ忘れる」とトラブルになる。忘れないためにスケジュール帳にかきとめる等するがスケジュール帳がどこかへ行ってしまう。
どうしても勉強の支援に偏りがちです。本人の人柄により、人間関係に問題は生じませんので学習以外の支援をどうすればいいのかわかりません。
高校では前例が少なく、また管理職の知識、支援が少なく、指示もないので全て手探り。市の教育委員会が大阪府のようにもう少しきちんと指針を明確にすべき！現場が困っている！
個別支援した方がよい子どもは複数名いるが指導者側の数が不足している。
機能が回復してきていると思われるがそれが回復なのか確信がもてない
記憶障がいがあり、なかなか学習が定着しないが、時としてびっくりするような脳腫瘍で手術後の父に「頭痛いんやったらCTとったら」というような発言がある。時、場所にマッチした言動がとれる。本人の内面の成長がまわりになかなか理解されないし、私自身もどこまで分かっているか見定め難い。
私はバカだからと自信を持てなかった。
支援の方向性
お話の中にでてきたように認知できていない障がいの部分がある

Ｑ５．Ｑ３で「イ．支援していない」と答えた方にお尋ねします。支援していない理由は何ですか（N=6）



Q5.支援していない理由

「その他」と答えた方の具体的な内容

教室でなんとか勉強できているが、頭痛のため欠席、遅刻、早退が多い。今のところは、大きな問題になっていないと聞いている。担任任せになっていて、担任が気付かないと支援ができていないことが多くある。
特に大きな問題等が表面していないため
はっきりそうかわからない
休学中のため
ほとんど欠席している。

Ｑ６．高次脳機能障がいと診断された児童、生徒を学校で受け入れるに際し、何か配慮されたことはありますか。

例えば何月何日や何曜日、本日のスケジュールが分からなくなってしまうので、常に見える場所に明示したり、大切なことを書きとめて見えるようにしたり、繰り返し学習で定着をはかる努力はしている。
支援学級への入級
支援学級担当と連携して対応する。
支援学級、交流学級担任の細やかな学校生活、学習面での配慮。
入学後だったので特に何もしていないが、症状が悪くなれば別室学習などの配慮をすることができる。

担任、体育の授業
発達障がい児への配慮と同じような内容
親の許可を得て全学年生徒に障がいのことを周知した。
入学・転入・復学の時、診断されている事実が学校側に知らされる事が少ない。 もっと連携を蜜にしたり、信頼される関係を深める必要を感じている。
保護者との連携を大切にしている。場面によっては主治医にも面談してもらうようにしている。
特に家庭との連絡を密にして本人、ご家庭の思いを知る。また答えられるように努める。
学年の教員全員が理解しておく
これまではありません
今までそういうケースなし
一般入試で入っている為、特になし。必要と思われる事前懇談をおこなった。
なし。今後の学校としての対応が心配です。

Q７．高次脳機能障がいと診断された児童、生徒に対して、今後、どのような支援が必要ですか。

医療との連携、医療の知見をいかす。
研修会等を通し多数の教員に「高次脳機能障がい」についての問題点や学校としてできる支援方法や対策について考えていく必要がある。
個々のサポーターが必要
もし、そのような生徒が入学してきたり、受入れる場面は、本人だけでなく、その周りへの支援も必要だと分かりました。
ひとくくりでは難しい（１人１人の生徒が違うため）。知識と経験豊かな人材を早く、多く、現場に配属してほしい。
保護者との連携を大切にしている。場面によっては主治医にも面談してもらうようにしている。
保護者支援に加え、専門家との連携の中で、的確な支援の方向性を定めること。
生徒への支援の究極は親支援だと思う、そのために教師はあらゆる面での専門家としての知識が必要だと思う。生徒の気持ちに寄り添いながら成長への道しるべを共にみつけていく。
子どもの状況を把握し、家庭との連携、校内体制の確立、サポートできる集団作りを日々努めていくことが大事だと思います。
周りの生徒達の理解、変化の少ない環境。
他の生徒への協力の依頼

周囲の理解、他者を受入れるゆとり
教職員の理解を深める。
教職員全体が高次脳機能障がいについての知識を深め、色々な角度から支援する必要と自尊感情を大切にし、伝える事を大切にしたいと思います。
学校全体、教職員の理解と知識の取得
寄り添い、見守り、共感、共動、共育
テストとか進級に関してのフォロー
進路選択
支援学級、交流学級担任の細やかな学校生活、学習面での配慮。
相手の気持ちや社会的なルールを本人にとってわかりやすく何度も伝えていくこと。
担任１人でなく、やはり、みんなが障がいについて理解していけるように学校全体で取組む体制が必要だと思いました。
症状により、ケースバイケースで対応していくことが必要だが、全日制の高等学校でできる支援は限られているかもしれない。学校全体で考えていく必要がある。特に管理職の理解が必要。
コーディネーターを中心とした体制づくり。教職員の意識改革。学校外部との連携。
学校全体、学年全体で支援していく
定期的な脳の検査（病変でなく、働くようになった部分を調べる）といった医学的なバックアップがほしい。また、対処法の具体例をできるだけたくさん知りたい。
個人のことをよく理解し、今日お聴きしたことを注意しながら対応していかなくてはいけないと思った。

8　意見・感想

私の学校には高次脳機能障がいの生徒はいませんが、障がいに対する先生方の周知が必要なんだとあらためて感じました。
本校に通う発達障がいの子を思い浮かべて聴いていました。彼らにとっての学校という場がどういうものかという話を聴いた時、彼らは本当にすごいなあ、よくその環境に慣れようとしてくれてるなあと思いました。その分、すごく成長もしてくれているし、卒業してからも、まだまだたくさんの課題や壁があるでしょうが、きっとうまく乗り越えたり付き合ってくれるだろうなと希望がもてました。
保健室との関わりも多いのではないかと思い、今回参加させていただきました。診断名はその人のひととなりを見落としかねなくて、「コテイカンネン」で判断しそうになる（教員）大人は多いように思います。

初めて高次脳機能障がいについて、くわしい話を聞かせてもらいました。ありがとうございました。
高次脳機能障がいとまではいかないが、脳炎罹患後、軽度の記憶障がいをもつ生徒がいます。このように高次脳機能障がいにはおさまりきらない子ども達のお話を聴かせていただけたらと思います。また、低年齢の子ども達を中心としたお話を聴く機会はありますが、社会に出て行く高校生年齢の子ども達についてのお話を聴かせていただける機会を設けていただければと思います。 （高校養護教諭）
具体的な事例をあげて説明があると、理解しやすいのでは・・・・。
教えていただきたい事がたくさんあったが範囲が広すぎる様に感じた。次回はもう少し的を絞り回数をわけて話を伺いたい。
発達障がいの生徒が本校におります。高次脳機能障がいの支援と共通する部分が多くあり、とても参考になりました。中途障がいを受け入れていくのはとても大変な事（本人も周囲も）だと切に思いました。人的資源の充実も必須ではないでしょうか。
発達障がいの児童が多いため、支援の基本など大変参考になりました。ありがとうございました。
発達障がいとはまた違う、この障がいに対して少し理解できた。少し時間が短かかったことが残念でした。
現在小５、彼女の就労の可能性と手立てが知れるような情報を学校側としては知りたいし、それに向けてどのような支援をしていったらよいかアドバイスがほしい。
相談システムでは、どんなことをしてもらえるのでしょうか。パンフにも明記できるものがあれば書いてください。
集団に理解させる時、その集団の中に発達障がい的特性をもった生徒がいたらどうすればいいか？
高次脳機能障がいについて、ほんとに少ししか知らなかったので、今日は聞いていて難しいなと思いました。もっと勉強していきたいと思います。
本校には高次脳機能障がいの子どもはいませんが、発達障がいの子どもたちの指導にあてはまるところがたくさんありました。学校に帰ってから、委員会の方でも伝達できればと思っています。ありがとうございました。
小学校に入学してくる子どもたちに、もしかするとそういう経歴（事故、病気）のある子もいるかもしれないなあと感じました。学校ではいろんな問題が日々おきていますので。 ただ、どの子に対してもていねいに接していく必要があるのだということを痛感しました。ありがとうございました。
支援の仕方を具体的に教えていただき、大変参考になりました。事故にあう生徒が多くいますが、高次脳機能障がいと思われる子は２から３年に１人います。あまり重度になると休学→退学となってしまいます。発達障がいの子も多いので勉強面では重い障がいが残らない限り大丈夫なのですが・・・。
今回受講するに当たって予習してきました。

現在まで診断を受けて入学してきた生徒にかかわったことはありません。目に見える障がいとは異なるだけに周囲の気づきや気配りが重要であると感じました。
現在高次脳機能障がいの疑いのある子はいませんが、今後の為に研修したいと思っています。
もっと時間ほしい。説明がとっても良かったので再度お話聴きたいです。
目が覚めました。
長い間の経験からのお話、詳しくわかりやすいお話でとてもよかったです。途中で発症した子がいましたが、病院、親、教師で話し合いをして、何とか生活していました。
どの勤務先でも起こりうることなので、研修会に参加してよかった。また、発達障がいにも通じることが多いので、参考にし今後の活動に役立てたい。
とてもわかりやすく説明され、対応方法もわかりやすかったです。実際の支援のポイントがわかりました。ありがとうございました。
とてもわかりやすい説明でした。発達障がいの子供達への支援のヒントもいただきました。ありがとうございました。
当事者の「自己理解」という観点は大変参考になりました。
知らなかったことが、いろいろわかりました。発達障がいの生徒へのアプローチと共通するところもあり、わかりやすかったです。
大変貴重なお話ありがとうございました。
高次脳機能障がいについての知識が増えました。対応についてもよくわかりました。ありがとうございました。
貴重な研修の機会ありがとうございました。
期待以上の内容に大満足です。実践に活かします。ありがとうございました。
家族への対応等、大切なことを学ばせていただきました。これからの学校での実践に活かしていきたいです。ありがとうございました。
ありがとうございました。支援の基本は障がいの形がいろいろであっても、一貫しているもんだなと感じました。

近畿ブロック 研究発表（論文）

著者名	タイトル	発表誌名	巻号（ページ）	出版年
大阪府				
辻野 琢也	大阪府立障がい者自立センターにおける高次脳機能障がい者支援（前編）	大阪府言語聴覚士会ニュース	No.35 P5	平成22年4月
辻野 琢也	大阪府立障がい者自立センターにおける高次脳機能障がい者支援（後編）	大阪府言語聴覚士会ニュース	No.36 P12-15	平成22年5月
宮脇 健三郎・佐野 睦夫・米村 俊一・大出 道子・松岡 美保子	高次脳機能障害者向け調理ナビゲーションのためのレシピおよび提示メディアの構造化	映像情報メディア学会誌	2010年12月号 P1863-1872	平成22年12月

近畿ブロック 研究発表（学会発表）

発表者名	タイトル	学会名	場所	日時
京都府				
武澤 信夫・菊地 礼恵・乃美 由樹代・近藤 正樹・水野 敏樹・中川 正法	高次脳機能障害者の神経心理検査の変化と転帰	第35回日本脳卒中学会総会	盛岡市	平成22年4月15日
武澤信夫・平野哲雄・高ノ原恭子・近藤正樹・中川正法	高次脳機能障害普及事業の問題点と今後の課題	第34回日本高次脳機能障害学会総会	さいたま市	平成22年11月18日
滋賀県				
植田 仁美・原田 晴美・小西川 梨紗	「脳損傷者の実車運転による自動車運転評価についての一考察」	第44回日本作業療法学会	仙台市	平成22年6月11日～13日
渡辺幸子・福尾明希	高次脳機能障害者の集団プログラム～集団活動の機能を考慮したプロセスの検討	日本心理臨床学会第29回大会	仙台市	平成22年9月3日～5日
小西川 梨紗・原田 晴美・島田 司巳	高次脳機能障害者への就労継続支援	第29回滋賀県社会福祉学会	滋賀県草津市	平成23年2月22日
小西川 梨紗・原田 晴美・島田 司巳	「高次脳機能障害者への就労継続支援ー自己認識と実際の行動のずれへの介入の試みー」	第5回滋賀県連携リハビリテーション学会	大津市	平成23年3月12日～13日
兵庫県				
因來 愛実・富高 智成・白川 雅之・清水 寛之	健忘症患者における日常記憶の自己評価(3)—メタ記憶質問紙における健常高齢者との比較—	日本心理学会第74回大会	大阪府豊中市	平成22年9月20日～22日
上田 昌子・荒牧 陽子・東山 毅・白川 雅之・因來 愛実・石谷 典子・津田 明子・木村 貴子・横山 和正	Integrative Visual Agnosiaおよび想起画に障害を示した一症例	第34回日本高次脳機能障害学会学術総会	さいたま市	平成22年11月18日～19日
津田 明子・石谷 典子・木村 貴子・東山 毅・荒牧 陽子・上田 昌子・白川 雅之・因來 愛実・原 良昭・横山和正	脳血管障害者の自動者運転について(1)—運転能力の予測に有効な神経心理学的検査の検討—	第34回日本高次脳機能障害学会学術総会	さいたま市	平成22年11月18日～19日
木村 貴子・石谷 典子・津田 明子・東山 毅・荒牧 陽子・上田 昌子・白川 雅之・因來 愛実・原 良昭・横山和正	脳血管障害者の自動者運転について(2)—試乗適性評価の結果と高次脳機能障害の影響—	第34回日本高次脳機能障害学会学術総会	さいたま市	平成22年11月18日～19日
石谷 典子・津田 明子・木村 貴子・東山 毅・荒牧 陽子・上田 昌子・白川 雅之・因來 愛実・原 良昭・横山和正	脳血管障害者の自動者運転について(3)—試乗適性評価の結果と神経心理学的検査の関連性—	第34回日本高次脳機能障害学会学術総会	さいたま市	平成22年11月18日～19日

近畿ブロック 研究発表（学会発表）

発表者名	タイトル	学会名	場所	日時
澤田 彩映・西村 武・飯塚 哲也・奥村 歩美・船波 寛子・塩谷 紅美・密山 直樹・安尾 仁志	高次脳機能障害者の地域移行に向けた支援について～事例を通して考えたこと～	身体障害者リハビリテーション研究集会2010	名古屋市	平成22年11月18日～19日
塩谷 紅美・密山 直樹・安尾 仁志・田中 美穂・掘井 好典・西村 武	当施設での自動車運転評価・訓練の取り組み～高次脳機能障がい者の自動車運転について～	身体障害者リハビリテーション研究集会2010	名古屋市	平成22年11月18日～19日
奥村 歩美	高次脳機能障害利用者へのグループワーク～「朝の会」の活動を通して～	第12回兵庫県総合リハビリテーションケア研究大会	神戸市	平成23年2月27日
澤田 彩映	高次脳機能障害利用者の地域移行に向け	第12回兵庫県総合リハビリテーションケア研究大会	神戸市	平成23年2月27日
大阪府				
杉山 綾子・大谷 直寛・渡邉 学	頭部外傷患者の混乱期における環境設定の有用性について	第44回作業療法学会	仙台市	平成22年6月11日
前川 静香・大瀬 倫子・山中 緑・北田 亨代・金高 洋子	乳児の経口摂取の発達過程に類似する接触行動を呈した低酸素脳症の一症例	第17回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会 学術大会	新潟市	平成22年9月4日
坂本 典子・竹内 美奈子・大谷 直寛	発動性の低下に対し、集団療法を行って	リハビリテーション・ケア合同研究大会山形2010	山形市	平成22年10月21日
竹内 美奈子・大谷 直寛・山中 緑・渡邉 学	当院におけるADL非自立の頭部外傷患者について	リハビリテーション・ケア合同研究大会山形2010	山形市	平成22年10月21日
竹内 美奈子・山中 緑・渡邉 学	低酸素脳症患者の食事動作の改善経過について	第34回日本高次脳機能障害学会学術総会	さいたま市	平成22年11月18日
渡邉 学・山中 緑・杉山 綾子	頭部外傷後のAgitationに対する家族介護者付き添いの有効性	第34回日本高次脳機能障害学会学術総会	さいたま市	平成22年11月19日
酒井 味香子・渡邉 学・山中 緑・出谷 京子	脳外傷により高次脳機能障害を呈した小6男児への就学支援の1症例	第34回日本高次脳機能障害学会学術総会	さいたま市	平成22年11月19日
辻野 琢也・山下 久美・泉谷 知子・岩見 和夫	高次脳機能障がいに対する 自立訓練の支援の現状～機能訓練・生活訓練のデータをとおして～	身体障害者リハビリテーション研究集会2010	名古屋市	平成22年11月19日
佐野 睦夫・宮脇 健三郎・米村 俊一・菅野 圭子・大出 道子・小山 智美	高次脳機能障害者の社会的スキル向上を支援する協調型調理ナビゲーションシステム	2010年度HCGシンポジウム	宮崎市	平成22年12月17日

別紙３

厚生労働科学研究費補助金（こころの健康科学研究事業）
（分担）研究報告書

高次脳機能障害者の地域生活支援の推進に関する研究

研究分担者　永廣信治　徳島大学脳神経外科教授

研究要旨
四国ブロックでは、四県すべてに中核支援施設と支援コーディネーターが指定され支援活動が定着しつつある。徳島県では地域病院との連携を図るため高次脳機能障害連絡協議会を立ち上げ、定期的に症例検討会を開催すると共に徳島県版スクリーニングテストを作成し、共通試用を開始した。啓蒙活動を継続すると共に成果をまとめ学会等で発表した。

A．研究目的

平成20年度には、四国全県において中核支援施設と支援コーディネーターが確定、支援活動が定着しつつある。さらに地域社会生活への参加に関する支援体制を充実させるため、現状調査・関係機関への啓蒙活動を行うとともに、研究成果をまとめ公開、発表する。

B．研究方法

1) 四国各県において、連絡協議会や高次脳機能障害講習会・研修会の活動を継続する。

2) 支援実態調査：各県の中核施設や関連協力施設での相談件数調査を継続する。

3) 各県の支援機関・自治体・家族会の活動状況調査。

4) 徳島県では回復期リハビリテーション病院などとの連携を深めるために、高次脳機能障害連絡協議会を立ち上げ、毎月症例検討会を開催した。見当識・短期記憶・半側空間無視・注意力・遂行機能テストを組み合わせた高次脳機能障害スクリーニングテスト徳島版（Higher Brain Dysfunction Screening Test in Tokushima, Hibrid-STTと略す）を作成し、共通試用を開始した。

（倫理面への配慮）

相談件数、活動状況調査は個人の情報を登録・公開することはないため、倫理面について問題はない。

C．研究結果

各県において講習会・研修会（表1）、委員会等（表２）を開催し、当事者・支援機関・施設関係者等への啓蒙を図るとともに各県における相談件数実態調査（表3）を行い、地域社会生活参加の支援体制の充実を図るための活動内容等についての検討を継続している。

徳島版スクリーニングテスト試用により高次脳機能障害を有する各疾患で経時的に検査し、Hibrid-STT（50点満点）の各年齢正常群での平均値が得られ、スクリーニングテストとして一定の評価が得られた。

本年までの成果をまとめ学会で発表を行った。論文として発表するよう準備中である。

D．考察

実態調査によると相談件数は着実に増加し、講演会・研修会等による啓蒙活動を継続的に行うことにより、支援施設の掘り起こしが進み、参加施設数も増加している。受け入れ施設・支援施設等への研修会も定着しつつあり、研究成果は徐々に上がっていると考えられるものの、就学や就労等の社会生活復帰に対する支援体制は十分とは言えず、さらなる体制作りが必要と思われる。

E．結論

今後、恒常的な成果の積み上げと発展には、継続的かつ精力的な学術的、社会的活動が必要である。

F．健康危険情報

該当無し

G．研究発表

1.　論文発表

1. Kawai N, et al, Focal neuronal damage in patients with neuropsychological impairment after diffuse traumatic brain injury: evaluation using $^{(11)}$C-flumazenil positron emission tomography with statistical image analysis, J Neurotrauma 27: 2131-2138, 2010

2.　学会発表

1．河井信行他、びまん性脳外傷後高次脳機能障害評価のためのフルマゼニル PET を用いた中枢性ベンゾジアゼピン受容体測定（シンポジウム）第 22 回日本脳循環代謝学会総会　2010.11　大阪

2. 永廣信治、四国地区における高次脳機能障害支援ネットワーク構築活動の成果と課題、第 34 回日本高次脳機能障害学会学術集会　2010.11　埼玉

3. 長束友香他, 高次脳機能障害スクリーニングテスト（徳島版）の試用と有用性- 健常者データと症例検討、第 34 回日本高次脳機能障害学会学術集会　2010.11　埼玉

4. 河井信行他、びまん性脳外傷後高次脳機能障害評価のための11C-フルマゼニルPETによる中枢性ベンゾジアゼピン受容体測定、第34回日本高次脳機能障害学会学術集会、2010.11　埼玉

H．知的財産権の出願・登録状況

該当無し

講習会・研修会開催一覧

県名	開催日	会の名称	開催地	参加者数
愛媛県	2010. 8. 5	今治保健所（社会復帰推進連絡会）	今治市	20
	2010. 8. 28	高次脳機能障害支援拠点機関講習会	松山市	294
	2010. 11. 29	八幡浜保健所（地域保健保健師研修会）	八幡浜市	50
	2010. 12. 7	西条保健所（高次脳機能障害支援研修会）	西条市	63
	2011. 1. 28	四国中央保健所（高次脳機能障害支援者連絡会）	四国中央市	51
	2011/3/3（予定）	今治保健所（社会復帰推進連絡会）	今治市	30
	2011/3/19（予定）	高次脳機能障害支援研修会	松山市	
香川県	2010. 2. 28	地域における施設の拠点機能に着目した事業者支援事業（県委託事業）	三木町	90
	2010. 8. 29	平成22年度第1回支援関係職員研修会	高松市	36
	2010. 10. 17	(社)日本損害保険協会リハビリテーション講習会	高松市	150
	2011/2/19（予定）	平成22年度高次脳機能障害講演会	高松市	
高知県	2010. 10. 3	高次脳機能障害リハビリテーション講習会～2010高知～（共催）	田野町	83
	2010. 10. 10	高次脳機能障害リハビリテーション講習会～2010高知～（共催）	高知市	130
	2010. 10. 17 2011/3/5（予定）	高次脳機能障害リハビリテーション講習会～2010高知～（共催） 事例から学ぶ！「高次脳機能障害」講習会	四万十市 高知市	54
徳島県	2010. 11. 14	(社)日本損害保険協会リハビリテーション講習会	徳島市	
	2010. 8. 4	徳島保健所（高次脳機能障害講演会）	鳴門市	80
	2011/2/17（予定）	徳島保健所（高次脳機能障害講演会）	板野町	
	2010. 12. 20	徳島保健所（高次脳機能障害講演会）	徳島市	140
	未定	徳島保健所（高次脳機能障害講演会）	小松島市	
	2010. 10. 6	吉野川保健所（高次脳機能障害研修会）	吉野川市	37
	2011/2（予定）	阿南保健所（高次脳機能障害講演会）	阿南市	
	2010. 6. 21	美波保健所（高次脳機能障害研修会）	美波町	47
	2020. 7. 25	美馬保健所（高次脳機能障害交流会）	美馬市	12
	2011/2（予定）	三好保健所（高次脳機能障害交流会）	三好市	
	2010. 8. 19	精神保健福祉センター（関係職員研修会）	徳島市	122
	2010.9.24	平成22年度相談支援従事者研修 （徳島県障害者相談支援センター主催）	板野町	144
	2010.4.8	徳島高次脳機能障害検討会	徳島市	29
	2010.6.3	徳島高次脳機能障害検討会	徳島市	43
	2010.7.22	徳島高次脳機能障害検討会	徳島市	35
	2010.9.16	徳島高次脳機能障害検討会	徳島市	36
	2010.12.2	徳島高次脳機能障害検討会	徳島市	32
	2011.1.6	徳島高次脳機能障害支援ネットワーク定例会	徳島市	38

委員会開催一覧

県名	開催日	会の名称	開催地	参加者数
四県合同	2010. 11. 14	四国ブロック担当者連絡協議会	徳島市	29
愛媛県	2010. 8. 28	高次脳機能障害支援担当者会議	松山市	34
	2010. 8. 31	高次脳機能障害支援連絡協議会	松山市	32
	2010/3/予定	高次脳機能障害支援連絡協議会	松山市	
香川県	2011/2予定	香川県高次脳機能障害支援連絡協議会	高松市	
高知県	2010. 6. 22	第一回高次脳機能障害支援委員会	高知市	15
	2010. 9. 17	第二回高次脳機能障害支援委員会	高知市	12
	2010. 12. 17	第三回高次脳機能障害支援委員会	高知市	16
	2011/3/17予定	第四回高次脳機能障害支援委員会	高知市	
徳島県	2010.5.13	高次脳機能障害支援連絡協議会	徳島市	26
	2010. 12. 20	高次脳機能障害支援ネットワーク準備会	徳島市	15

相談件数一覧

県名	期間	施設名	相談件数		リハ訓練数	家庭訪問
			来所・来院相談数	電話相談数		
愛媛県	2010/4～12	愛媛県中核支援施設	22	95	18	
	2010/4～12	愛媛県相談支援協力施設６箇所	30	16	70	
	2010/4～12	県内保健所６箇所・心と体の健康センター	9	25		5
香川県	2010. 4～12	香川県中核支援施設（リハセンター）	115	281		19
	2010. 4～12	診断・評価協力病院（香大附属病院）	51	50		
		サンガリハビリプラザ	20	50	480	
高知県	2010/4～2011/1	高知県中核支援施設	3	39		
徳島県	2010年4月～10月末	徳島県中核支援施設	31	11	0	0
	H22年4月～10月末	徳島県保健所・精神保健福祉センター	19	16	0	12

【愛媛県】　　平成21年度高次脳機能障害支援普及事業 実績

1 委託事業

(1) 支援拠点機関の設置(平成20年4月1日付け指定)

松山リハビリテーション病院を支援拠点機関に指定し、高次脳機能障害者への相談指導、医療機関等への情報提供等を行った。
なお、支援拠点機関の設置及び運営は、県の委託事業として実施した。

○支援拠点機関の主な役割
・高次脳機能障害の「確定診断」
・相談指導
・リハビリ症例検討
・医療機関への情報提供・連携強化
・全国連絡協議会及び四国ブロック会議等への参加
・講習会の開催

○21年度相談支援実績(21.4.1～22.3.31)　　(件)

名 称	相談受理	支援状況	
		相談のみ	関係機関紹介
松山ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ病院	27	19	8

(2) 相談支援コーディネーターの配置(平成20年4月1日付け配置)

支援拠点機関に、相談支援コーディネーターとして木戸保秀医師を配置し、相談支援、医療、福祉サービスの情報提供、関係機関等に対する助言・指導を行った。
なお、相談支援コーディネーターの配置は、県の委託事業として実施した。

○相談支援コーディネーターの主な任務
・市町等への指導
・相談指導
・高次脳機能障害者への訓練・支援プログラムの作成
・全国連絡協議会及び四国ブロック会議等への参加

(3) 相談支援協力機関の設置(平成21年2月6日付け指定)

県保健所の圏域単位に相談支援協力機関を設置し、高次脳機能障害者及び家族に対する相談支援及び地域支援ネットワークの構築を図った。
なお、相談支援協力機関の設置及び運営については、県の委託事業として実施した。

○設置数 6機関
・(四国中央圏域) 石川病院
・(今治圏域) 片木脳神経外科
・(八幡浜圏域) 大洲中央病院
・(西条圏域) 済生会西条病院
・(松山圏域) 伊予病院
・(宇和島圏域) 市立宇和島病院

○相談支援協力機関の主な役割
・相談指導
・関係機関への情報提供・助言

○21年度相談支援実績(21.4.1～22.3.31)　　(件)

名 称	相談受理	支援状況	
		相談のみ	関係機関紹介
石川病院	2		2
済生会西条病院	5	2	3
片木脳神経外科	8	2	6
伊予病院	14	5	9
大洲中央病院	2	1	1
市立宇和島病院	4	1	3
計	35	11	24

2 県実施事業

(1) 高次脳機能障害支援連絡協議会の設置・開催

○会長:首藤 貴(県医師会)
委員19名
・支援拠点機関　・相談支援協力機関 (6機関)
・関係機関・団体(家族会「あい」、福祉サービス事業者、障害者職業センター、理学療法士、作業療法士、臨床心理士、言語聴覚士)
・精神科医師(愛媛大学医学部)　・リハビリテーション科医師(県医師会)

○21年度開催実績
第1回
・開催年月日　平成21年8月10日(火) 15:30～16:45
・開催場所　愛媛県総合社会福祉会館 4階 第2会議室
・出席者　委員17名(欠席2名)、事務局等15名　計32名
・協議事項　20年度事業実績
21年度事業計画
ワーキンググループの設置

第2回
・開催年月日　平成22年3月17日(水) 15:00～16:30
・開催場所　愛媛県総合社会福祉会館 3階 研修室
・協議事項　21年度事業実績見込み
22年度事業計画
ワーキンググループの活動状況

(2) 普及啓発事業

○リーフレットの作成・配布
・内容　県内相談窓口一覧(名称・所在地・電話番号)
名刺サイズ・3つ折り式・2色刷り
・作成部数　5,000部
・配布先　県内関係機関
・配布時期　平成21年10月

○高次脳機能障害支援研修会の開催
・主催　愛媛県
・開催年月日　平成22年3月3日(水) 14:30～16:30
・開催場所　愛媛県総合社会福祉会館 2階 多目的ホール
・参加者　保健・医療・福祉関係者等 87人
・内 容　講演
講師:広島県立障害者リハビリテーションセンター
高次脳機能センター長 丸石正治 氏
ほか

■高次脳機能障害支援拠点機関講習会

・主催　支援拠点機関（松山リハビリテーション病院）
・開催年月日　平成21年11月29日（日）13:00～15:50
・開催場所　愛媛県医師会館ホール
・参加者　保健・医療・福祉関係者等 296人
・内 容　講演
講師：熊本大学大学院医学薬学研究部脳機能病態学
教授 池田 学 氏
ほか

■高次脳機能障害リハビリテーション講習会

・主催　高次脳機能障害リハビリテーション講習会実行委員会
（事務局：愛媛高次脳機能障害者を支援する会「あい」）
・開催年月日　平成21年12月6日（日）13:00～16:00
・開催場所　ひめぎんホール 真珠の間
・参加者　保健・医療・福祉関係者、一般等 183人
・内 容　講演
講師：国立成育医療センター
リハビリテーション科医長 橋本圭司 氏
ほか

(3) 患者訪問相談

保健所保健師等による相談・訪問の実施

○21年度相談支援実績(21.4.1～22.3.31)　(件)

名 称	相談受理	支援状況		訪問
		相 談 の み	関係機関紹介	
四国中央保健所	36	30	6	2
西条保健所	11	2	9	2
今治保健所	4	1	3	
松山保健所				3
八幡浜保健所	3	2	1	
宇和島保健所	3	2	1	1
心と体の健康センター	1		1	
計	58	37	21	8

平成22年度高次脳機能障害支援普及事業 計画

1 委託事業

(1) 支援拠点機関の設置 【継続実施】

松山リハビリテーション病院を支援拠点機関に指定し、高次脳機能障害者への相談指導、医療機関等への情報提供等を行う。
なお、支援拠点機関の設置及び運営は、県の委託事業として実施する。

○支援拠点機関の主な役割
・高次脳機能障害の「確定診断」
・相談指導
・リハビリ症例検討
・医療機関への情報提供・連携強化
・全国連絡協議会及び四国ブロック会議等への参加
・講習会の開催

(2) 相談支援コーディネーターの配置 【継続実施】

支援拠点機関に、相談支援コーディネーターとして木戸保秀医師を配置し、相談支援、医療、福祉サービスの情報提供、関係機関等に対する助言・指導を行う。
なお、相談支援コーディネーターの配置は、県の委託事業として実施する。

○相談支援コーディネーターの主な任務
・市町等への指導
・相談指導
・高次脳機能障害者への訓練・支援プログラムの作成
・全国連絡協議会及び四国ブロック会議等への参加

(3) 相談支援協力機関の設置 【継続実施】

県保健所の圏域単位に相談支援協力機関を設置し、高次脳機能障害者及び家族に対する相談支援及び地域支援ネットワークの構築を図る。
なお、相談支援協力機関の設置及び運営については、県の委託事業として実施する。

○設置数 6機関
・(四国中央圏域) 石川病院
・(今治圏域) 片木脳神経外科
・(八幡浜圏域) 大洲中央病院
・(西条圏域) 済生会西条病院
・(松山圏域) 伊予病院
・(宇和島圏域) 市立宇和島病院

○相談支援協力機関の主な役割
・相談指導
・関係機関への情報提供・助言

2 県実施事業

(1) 高次脳機能障害支援連絡協議会の設置・開催 【継続実施】

○会長:首藤 貴(県医師会)
委員19名
・支援拠点機関 ・相談支援協力機関 (6機関)
・関係機関・団体(家族会「あい」、福祉サービス事業者、障害者職業センター、
理学療法士、作業療法士、臨床心理士、言語聴覚士)
・精神科医師(愛媛大学医学部) ・リハビリテーション科医師(県医師会)
・行政関係者(心と体の健康センター、保健所、松山市)

○22年度開催計画
第1回
・開催時期 平成22年8月31日(火)
・開催場所 松山市内
・協議事項 21年度事業実績
22年度事業計画
その他
第2回
・開催年月日 平成23年3月
・開催場所 松山市内
・協議事項 22年度事業実績見込み
23年度事業計画
その他

(2) 普及啓発事業

○高次脳機能障害支援普及事業研修会(県実施)の開催 【継続実施】
・開催年月日 平成23年2月
・開催場所 松山市内
・参加者 保健・医療・福祉関係者等
・内 容 講演 等

■高次脳機能障害支援拠点機関講習会
・主催 支援拠点機関(松山リハビリテーション病院)
・開催年月日 平成22年8月28日(土) 13:50~17:10
・開催場所 テクノプラザ テクノホール
・参加者 保健・医療・福祉関係者等 約350人
・内 容 講演
講師:北海道医療大学
看護福祉学部 教授
中川 賀嗣 氏
心理学部 准教授 大
槻 美佳 氏
ほか

■高次脳機能障害支援担当者会議

・主催	支援拠点機関（松山リハビリテーション病院）
・開催年月日	平成22年8月28日（土） 12:30～13:30
・開催場所	テクノプラザ テクノホール
・参加者	支援拠点機関、支援協力機関、各保健所、家族会、ほか
・内 容	意見交換、情報交換 ほか

■高次脳機能障害研究会
（支援拠点機関実施）

■高次脳機能障害リハビリテーション講習会
（「あい」実施）

(3) 患者訪問相談 【継続実施】

保健所保健師等による相談・訪問の実施

【愛媛県】

家族会

「あい」の新しい取り組み

8月 「あいの家」設立

東温市 賃貸アパート

8月 グループワーク「愛(え)くぼ」発足

「あいの家」を拠点に

現在 指導員(作業療法士)2名 ボランテイア1名

通所者 5名

週2回 10時～15時

全体の活動と個別対応の活動

日常生活再構築に向けての活動

症状の改善、克服へのリハビリ的活動

コミュニケーション能力向上、社会性の向上などを目指して

今後

「愛くぼ」

該当者の募集 開所日数を増やして対応する

東、南伊予地域での開所を

経費は「あい」の事業費と利用者負担で賄っているのでなんらかの対策を考える

定例会

南、中、東伊予での月1回開催の充実への工夫

【香川県】

かがわ総合リハビリテーションセンターにおける支援普及事業についての報告(4月から10月まで)

1 相談支援について

実人数としては、毎年ほぼ同じ程度(100名弱)で推移しているが、相談件数でいえば、毎年増加の一途をたどっている。相談者の中には、事業が始まる前からの継続支援者も含まれているが、新たな相談者の数も一定人数存在する。相談内容については、病院退院後の進路についてという内容が最も多く、高次脳機能障害についての診断・評価を希望するケースが最近は減ってきているように思われる。

また、相談者一人当たりの相談件数が増えている傾向があり、その場合の相談者の状況をみると、受傷から10年以上経過していて、ほとんど何の支援もサービスも受けて来なかった方が、「就職できない」とか、「自立生活ができない」という相談で家族と共に来られるケースが多いように思われる。長年、主に家庭の中だけで生活してきたために、世間の人との交流がないとか、社会活動に参加したことがないことから、世の中から遠ざかってしまい、一般の人の感覚とは少しズレを生じてしまっているのである。そういう方を支援することに、かなりの困難をきたし、より長い支援期間が必要となってくるのである。

2 研修会・講演会について

8月に実施した支援関係者研修会では、当センター内で主に生活訓練事業で高次脳機能障害者に日々関わっている職員を講師として、実際の関わり方や、支援の方法、また、訓練内容についての説明を行った。当日は、病院や福祉施設職員、介護保険関係者等の参加があり、具体的な事例を交えた話は、理解を促進することができた。

下半期の講演会は、一般県民を対象として、首都大学東京の渡邉修先生を講師にお迎えし、2月19日に実施予定である。

3 普及・啓発活動について

昨年度は、啓発パンフレットを作成し、県内医療機関や行政機関及び福祉関係機関に配布をしたが、やはりそこに足を運んだ人の目にしか触れないということを考えると、まだまだ不十分であると考え、今年度はポスターを作成し、公共の場だけではなく、より大勢の県民が集まる場所に掲示することを考えている。

4 ネットワーク構築について

今年度は、相談件数が増え、困難事例も抱えていることから、なかなか関係機関に対して連携を促すような活動があまりできていないのが現状である。医療機関とは、ある程度の連携はできたと思っているが、その他の就労や教育機関との連携はまだまだこれからの課題であると考える。

かがわ総合リハビリテーション事業団

支援コーディネーター　森川麻理